



令和三年弥生

# 城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 157名
○真剣に学ぶ生徒	2年 175名
○健康な生徒	3年 156名
	特別支援学級 7名
	全校生徒数 495名

## 心の在り様は、時空を越えて

校長 玉崎 芳行

“Suh sensei, by the way, do you know a poet, Samuel Ullman? His poem, ‘Youth’ is so marvelous !”

(ところでスー先生、サミュエル・ウルマンという詩人、知ってる？『青春』という彼の詩、とびきり素敵なんだよ！)

昼休みなどに、本校ALTのスー先生は、私の拙いブロークンイングリッシュに、いつも笑顔で応じてくれる心友でもある。トピックは、多岐に渡る。COVID-19に関する各国の対応、日本の文化や歴史の奥深さ、サッカーの魅力、チーム城北の素晴らしさetc…その日も、他愛ない話から、「人生における価値あるものとは？ポジティブに生きるパワーの源って何だろう？」というテーマに飛躍してしまった。そこで、彼に紹介したものが、アメリカの実業家であり詩人でもあったサミュエル・ウルマン(1840年 - 1924年) 作の『青春』という一編の詩である。

“Youth is not a time of life ; it is a state of mind”(青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。)

原詩の書き出しは先の通り。岡田 義夫氏の訳文は次のように続く。

“優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うときに初めて老いが来る。

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。曰く、驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味。人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる、人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる、希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる。… (後段略) ”

3年生が“受験生”と呼ばれ、自分自身との闘いを重ねてきた。そして、“卒業生”とも呼ばれる日も近い。いよいよ、それぞれが、それぞれの船に乗り、人生という大海原に漕ぎ出す瞬間が来る。たとえ、どんな困難が待ち構えていようとも、あなたの目指す場所を大切に、あなたらしく実直にそして直向きに、あなたのスピードで進めばよい。時に休み、時に遠回りをすることもあるだろう。誰かと、船の針路や速さを比べたり競ったりしたくなるかもしれない。そんな時は、思い出してほしい。あなたらしく、あなた自身の手で、あなたの人生を紡いでいくことにこそ、尊い価値があるのだということ。

どの時代、どの国でも、人生において大切なものは、己の心の在り様ではないだろうか。

「青春、朱夏、白秋、玄冬」と人生のステージを示す言葉もあるが、一生涯、青春を貫いてもよい。

私なりの精一杯のエールを、あなたに贈る。“自分らしく在れ。あなたなら、きっと大丈夫！”